

2024年度春期 海外チャレンジ研修(語学学校での短期研修)

学生	派遣国・期間	目的概要	1.海外体験によって自己成長した点	2.海外体験から学んだ点	3.海外体験によって変化した点	4.海外研修体験の効果	
Aさん	韓国・ソウル 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	留学当初は、言葉がうまく通じないことから不安を感じ、現地の人と話すことに消極的になる場面もありました。しかし、「せっかくの留学だから挑戦しよう」と気持ちを切り替え、自分から話しかける努力を続けたことで、少しずつ自信を持てるようになりました。	言葉が完璧でなくても、ジェスチャーや簡単な言葉を使えば気持ち伝えられることを、実際の交流を通して学びました。また、ステイファミリーとの生活を通じて、積極的な姿勢を出して話しかけた結果、食事のマナーや年上の人への接し方など、韓国ならではの文化や習慣を教えてもらい、日本との違いを具体的に理解することができました。	留学前は「間違えたらどうしよう」と考えて行動をためらうことがありました。留学後は「まずは伝えてみよう」と前向きに考えられるようになりました。	海外研修では、語学力の向上だけでなく、自分から行動することの大切さや、異なる文化を理解しようとする姿勢を身につけることができた。	
Bさん	オーストラリア・ヌーサ 7週間	語学学習・異文化コミュニケーション	留学前は、文法や発音の間違いを気にしつづいてしまい、自分の英語に自信を持てず、話しかけることをためらうことが多くありました。しかし、毎日英語を使う生活の中で、「間違えてもいいから話してみる」という姿勢に少しずつ変わってきました。	英語は完璧でなくても、「伝えたい」という気持ちがあれば会話は成り立つことを、日々の生活を通して学びました。また、オーストラリアでは知らない人同士でも気軽にあいさつを交わし、自分の意見をはつきり伝える文化があることを知り、日本との考え方や人との距離感の違いを実感しました。	「正しい英語を話さなければならない」という意識から、「まずは伝えてみることが大切」という考え方へと変化しました。	不安を感じながらも挑戦した経験は、自信につながり、今後の学びや新しい挑戦に前向きに取り組むマインドを持つことができました。	
Cさん	カナダ・バンクーバー 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	留学前に立てた目標(①しっかり勉強してしっかり遊び、後悔のない1ヶ月を過ごすこと。②できるだけ同じ母語の人とは付き合はず、英語をたくさん使うこと)に沿って、自分で計画を立てながら学習と生活を両立させ、限られた期間を主体的に過ごす力が身につきました。	多国籍なクラスメートとの交流を通じて、国や文化によって考え方や価値観が大きく異なることを実感しました。その違いを受け入れ、楽しみながら関係を築くことの大切さを学びました。	同じ日本人に頼らず、あえて英語を使う環境に積極的に身を置いたことで、英語で考え方、英語で行動する姿勢が身につきました。さらに、いろんなハブニングにも遭ったことで、考え方を含めて多様な人が共に暮らす社会が実感でき、異なる背景を持つ人々と共に存することへの理解が深まり、海外で学び暮らすことへの関心が高まりました。	この研修は、語学力の向上に加え、多文化環境の中で生活する経験を通して、柔軟な考え方や主体性を育む機会となりました。短期間であっても、海外での学びと生活が価値観や今後の学びへの姿勢に大きな影響を与える、有意義な研修になった。	
Dさん	韓国ソウル・6週間(語学学校)	語学学習・異文化コミュニケーション	初めての留学ということもあり、出発前は特にホームステイへの不安が大きく、現地到着後もしばらくは慣れない生活に戸惑い、ホームシックを感じる時期がありました。	しかし、学校で友人ができ、日々新しいことに挑戦する中で、少しずつ環境に順応し、自分自身を前向きに保つ力が身につきました。不安を抱えながらも留学生活を続けた経験は、大きな成長につながりました。	授業だけでなく、TOPIK対策のクラスを自ら受講したり、先生に積極的に質問したりする中で、「自分の好きなことに対する自然と努力できる」ことに気づきました。	日本では感じにくかった「言葉が通じない環境」に身を置いたことで、韓国語で伝える力が少しずつ身につき、自信を持てるようになりました。	語学力の向上だけでなく、異国の生活環境に適応する力や、自分から学びを深めたいと思えるようになりました。
Eさん	アメリカ・ニューヨーク 5週間	語学学習・異文化コミュニケーション	英語に対する苦手意識を持った状態で留学をスタートましたが、現地での生活や交流を通して、少しずつ英語を使うことへの不安が和らぎました。	特に、フランスからの留学生との日常的な交流を重ねる中で、自分の考えを英語で伝えようとする積極的な姿勢が身につき、英語を使うことに対する自信だけでなく、英語以外の言語への興味も徐々に育っていました。	ニューヨークで出来た友人関係を通じて、英語は単なる「勉強」の対象ではなく、人と人をつなぐ「共通の言語」であることを、実際の交流を通して学びました。	英語で話すことに対する抵抗感が減り、「伝えたいことを英語で伝える」ことに前向きに取り組めるようになりました。	英語力の向上だけでなく、多文化環境の中で人と関わる経験を通して、国際的な視野を広げる機会になりました。
Fさん	オーストラリア・ブリスベン 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	留学前に「英語力をあげること」と「意思表示をはっきりすること」を目標に掲げ、現地での生活を通して少しずつ行動を変えていました。	特に、ホームステイ先での生活では、部屋にこもらず家族と一緒に過ごす時間を意識的に作り、コミュニケーションを取ろうと努力するようになりました。このような小さな行動の積み重ねが、自分を変えるきっかけとなり、達成感としては80%できたと感じています。	ホストファミリーとのやり取りを通じて、「相手を気にしそうなあまり自分の意思が伝わらないことがある」という指摘を受け、自分の考え方や気持ちを言葉にする大切さを学びました。	「空気を読むこと」を大切にしてきた考え方へと加えて、「自分はどうしたいのか」を意識するようになりました。	語学学習だけでなく、自分の価値観や考え方を見直すきっかけとなる経験でした。
Gさん	オーストラリア・ブリスベン 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	海外での生活や学習を通じて、自分の考え方や意見を伝える姿勢が身についた。これまで遠慮がちだった場面でも、相手に理解してもらうために、自分の考えを言葉にして伝えようとする意識が高まった。また、予期せぬトラブルに直面した際にも、粘り強く対応する中で、忍耐力や柔軟性といった自分を強みに気づき、自信を持てるようになった。	異文化環境では、「自分はどう考えているのか」「なぜそう思うのか」を明確に伝えることが、人間関係や円滑なコミュニケーションにつながることを学んだ。また、言葉が十分に通じなくても、表情や声のトーン、ジェスチャーなどが大きな役割を果たすことを実感したので、これから日本でのアルバイトでも役立てられると思い、相手に安心感を与える態度の大切さにしようと思った。	日常的な会話や対人場面において、受け身ではなく主体的に関わろうとする姿勢へと意識が変化した。加えて、笑顔や相手を意識した話し方を心がけることで、コミュニケーションが円滑にでき、今後の学内外での人間関係や接客場面にも活かしたいという意識が高まった。	語学力の向上にとどまらず、異文化の中で自分を表現し、困難な状況を乗り越える経験が、社会人としての態度や対応力を強くすることになると感じた。海外という慣れない環境での実体験が、自信を深め、今後の行動や考え方へ前向きな変化をもたらすことが分かった。	
Hさん	オーストラリア・ブリスベン 4週間	語学学習・異文化コミュニケーション	初めて家族と長期間離れて海外で生活する中で、不安や戸惑いを抱えながらも、自分で考え方行動する力が養われた。英語に自信がない状況でも、相手に伝えようと工夫し続けた経験を通じて、「挑戦すれば前に進める」という実感を得ることができ、精神的な自立や自信がつきました。	言葉が十分に通じなくても、伝えたいという気持ちがあれば、相手は理解しようとしてくれるということを実体験から学んだ。また、ジェスチャーや表情、身振りといった非言語的な手段も、コミュニケーションにおいて重要なことを理解した。異なる文化や価値観を持つ人々と出会うことで、多様性の中で人と関わることの大切さにも気づいた。	失敗や伝わらない悔しさを感じながらも挑戦を続けたことで、自分に対する見方が前向きに変化したこと気づいた。周囲の目を過度に気にせず、ありのままの自分で人と関わろうとする姿勢が身につき、以前よりも積極的に行動できるようになった。また、帰国後も日記をつける習慣が続いたなど、自己を振り返り成長を実感する行動が定着した。	語学力の向上だけでなく、異文化環境の中で挑戦し続ける経験を通して、自信・主体性・学習意欲を高めることができた。オーストラリアでの体験で、さらに英語を学びたいと思えるようになり、将来に向けた行動につなげることができるようにになった。	
Iさん	オーストラリア・パース 5週間	語学学習・異文化コミュニケーション	自分にとって2度目の海外留学だったが、当初は慣れない環境や英語での会話に戸惑いながらも、自分から積極的に人と関わろうと行動する中で、失敗を恐れず挑戦する姿勢が身についた。自分の考えを英語で伝えようと工夫を重ねることで、少しずつ自信を持てるようになり、主体的に行動する力の成長を実感することができた。	文化や価値観の違いに直面し、「自分と違うこと=変一間違い」ではなく、違いは個性で、理解するための姿勢や知識が大切であると学んだ。食事のマナーやシャワー時間などの生活習慣と環境意識など、日本の普通が通用しない場面を通じて、相手の文化に興味を持ち、理解しようとする姿勢の重要性を実感した。	自分から話しかけ、分からしいことを素直に尋ねる経験を重ねることで、英語で意見を伝えることへの抵抗感がなくなった。帰国後は、授業での発表に自信を持って臨めるようになるなど、学内での行動にも変化が見られた。また、語学学習や国際交流活動を継続したいと考え、日常的な学びの姿勢を定着させることができた。	語学力の向上にとどまらず、異文化の中で自分の考え方を持ち、相手と向き合う力を育てることができた。違いを受け入れ、理解しようとする姿勢や、自分の意見を大切にする意識が育まれ、今後の大学生活や社会陣生活に役立てることができると思いました。	